



2017~2018

国際ロータリー第 2730 地区

週報 佐土原ロータリークラブ

会長：郡司 武俊 副会長：鷓野 隆春 RI2730 地区ガバナー 押川 弘巳
 幹事：梶田 與之助 会計：太田 雅文 中部分区ガバナー補佐 久寿米木和夫
 事務局：吉野由里子 会報委員：藤堂孝一 RI 会長テーマロータリー：変化をもたらす
 例会場：ワールドコンベンションセンターサミット 2730 地区テーマ『ロータリーを知り理解を深めよう』
 例会場住所：〒880-8545 宮崎市大字塩路浜山
 例会場 TEL：0985-21-1133・FAX 0985-21-1144
 事務局住所：宮崎市佐土原町下田島 11703-18 TEL0985-62-7833 FAX0985-62-7877

RI テーマ
ロータリー：
変化をもたらす

第 1.454 回例会 平成 29 年 8 月 30 日(水)

<今日のプログラム>

- 1.)点 鐘
- 2.)ロータリーソング 「手に手つないで」
- 3.)4つのテスト唱和 4.)本日のビジター紹介
- 5.)会長の時間 6.)幹事報告
- 7.)出席報告 8.)ハッピーBOX 披露
- 9.)各委員会
- 10.)会員卓話「林 重元会員」
- 11.)SAAより次週例会案内
- 12.)点 鐘 ☆臨時理事・役員会

第 1.452 回例 平成 29 年 8 月 9 日 (水) の記録

■4つのテスト唱和 蔵田 良純会員

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. 皆に公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか
- 5.



■会長の時間 会長 郡司武俊会員



1453 回の例会です。ご存知の方も居られますが、藤堂会員が天井に上がろうとして、乗っていたはしごが倒れて足の踵の右複雑骨折、左もひびが入り両

足の固定全治1ヶ月だそうです。ちょっとした気の緩みだと言われていました。皆様も気をつけましょう。住吉の河野整形外科に入院されています。藤堂実行委員長が復帰されるまで、太田忍副実行委員長にお願いしますので宜しくお願いします。今日は職業奉仕について調べてきましたがなかなかつかみどころがなく社会奉仕との違いもまた分かりづらいです。ともかく調べて来た事を簡単にお話しさせていただきます。ポールハリスの自叙伝「ロータリーの私の道」の中で「ロータリーの会員はその

一人ひとりが自分の職業とロータリーの理想とを結ぶ環である」と書いています。この言葉はポールハリスが職業奉仕について直接触れた訳ではないのですが第 2 の奉仕部門を考えていた事は間違いない様です。何故ならロータリーは職業分類に基づく会員組織なのでロータリーと職業を切り離して考えることが出来ないからです。クラブ会員は自己の職業の代表者としてロータリークラブに入会したのだから、2 つの事を行わなくてはならない。①クラブに対して自己の職業の代表者となり奉仕活動を行う。②ロータリアン以外の人達にはロータリーの精神を普及する責務を負う。この2つが職業奉仕の基盤になる。ロータリアンは職業奉仕の基盤として自分に問いかけなくてははいけません。それは「他の人にもう少し優しくなり、力になってあげる為に日常の仕事の中で何ができるだろうか」いわゆる職業奉仕はこの基本を実践しなくてはならないのです。世界中のロータリーが職業奉仕をどのように定義しているのでしょうか。5 例ありましたので紹介します。「中略させて頂きます」ともかく職業奉仕を難しく考えずに自分の職業に誇りを持ってまじめに取り組むことではないでしょうか。

■幹事報告 幹事 梶田與之助会員



< 文書報告 > *
 「RDI2730 公共イメージ向上セミナー」開催のお知らせ」日時 9 月 16 日(土)10:00~* 地区大会提出レポート会長・幹事への質問事項

*「九州北部豪雨災害」被害への支援について

■出席報告 荒武 義博会員

会員数	26 名
免除数	2 名
出席数	14 名
欠席届	12 名
MU 届	0 名
出席率	58.3%



■委員会報告 岩切正司会員 宮原 建樹会員



■ハッピーBOX 披露 永野陽子会員



<財団へ>
●岩切正司会員～例会出席に励みましょう。

■会員卓話 太田 雅文会員

「私の生き立ちについて」



私は昭和 46 年 7 月に宮崎市木花に生を受けました。長男として生まれ、両親はその当時まだ少なかったビニール

農業を営む専業農家でした。兄弟は 2 歳下の弟と 3 歳下の妹の 3 人兄弟です。歳も近かったせいか弟とはよく喧嘩をしていて私は隣に済む祖父母に預けられ、弟と妹はハウスに連れて行かれていたことを覚えています。毎日遅くまで仕事をしていたのであまり遊びに連れて行ってもらった記憶はありませんが、夏休み時期は必ず海水浴に連れて行ってくれたことと、毎日キャッチボールをしていていた事は鮮明に覚えています。父親は工作中いつもラジオで野球放送を聞いていましたし、仕事が終わって夜家に居るときは野球中継を見ていたので物心付いた時から遊びも野球が中心になっていました。小学校の中学年くらいから少年野球チームで野球をやりたいなと思ってはいましたが、両親は忙しいので下校後は兄弟 3 人で家の手伝いをしていました。何より野球は道具にお金がかかるとのことで、なかなか野球チームに入れてもらうことは出来ませんでした。私が野球を始めたのは奨学 6 年生からで、中学、高校と続けました。中学の時は 1 年の夏から試合に出してもらっていましたが、中学校での公式戦では 1 回も勝てませんでした。2 年の新チームになってからはけが人も多かったのでピッチャーをすることが多くなってきました。3 年生の 4 月に肩を痛め、オーバーハンドで投げられなくなりその時は

野球を辞めることを真剣に考えました。

その時の監督が、アンダースローでの投球ホームを教えてくれて高校ではアンダースローで野球部に入りました。宮崎南高校に入ったのですが、当時の宮崎農業高校には公式野球部がなかったので南校を目指した次第です。中学 3 年の夏は自分の中では必死に勉強した方だと思います。そして野球部に入部したのですが最初は 40 人くらいいた部員が、夏の予選までには 15.6 人に減っていました。

入部当初はボールを握ることは出来ずに毎日声だしと体力強化も基礎練習ばかりでしたし中学校までにはなかった厳しい上下関係がありました。

その中で私の人生の中で一番強烈な出会いがありました。その時の監督でありました宮国監督との出会いです。入部当初からアンダースローという投げ方でしたので期待してもらっていたのですが、なかなか結果を残すことが出来ずに 1 年半位はかなり苦しい毎日を過しました。今考えるとこの時期の経験が銀行に入ってから、ひいては社会に出てからある程度のつらいことを何とかやり過ごすことが出来た要因のひとつだと思います。でも、高校時代の辛い経験というのは自分では乗り越えたとは思っていません。つらいときに助けてくれた先輩や同級生の存在があったから、その当時毎日を過すことが出来たのだと思います。高校時代はほぼ勉強していなかったため、当然大学受験には失敗しました。

父親からは現役で大学に行けないのであれば農業を継ぐように言われていました。自分でもそれでいいかなと思っていました。しかし、その時病気療養中であった祖父から大学だけは行っておけと言われて、また、祖父が父に頼み込んでくれて 1 年浪人することになり、1 年後地元の大学へ入学することが出来ました。「中略させていただきます」そんな私にも妻と子供 3 人の家族が出来ました。長男は今中学 2 年生で、奨学 3 年の時から野球をやっています。私もコーチ、監督を経験させてもらって子供に物事を教える難しさを痛感しました。今も毎週試合は出来る限り観に行き練習試合の主審もやっています。銀行員のストレス解消で多いのはゴルフですが今の私には息子の野球が毎週のストレス解消になっています。今回卓話で今までの自分の人生を振り返ってきたのですが両親を含めた家族や、中高校時代の野球部の先輩、仲間、銀行の先輩や同僚に支えられてきて今生きていることが出来ているのだと改めて感じました。 ■SP 梶田直樹会員

